

参 考 資 料

「エコシティたかつ」推進会議 資料及び摘録

令和２年度 第１回「エコシティたかつ」推進会議 次第

日時：令和２年９月１６日（水） １３時から

場所：高津区役所 ５階 第１、第２会議室

１ 開会

２ 区長あいさつ

３ 委員自己紹介

４ 議事（質疑応答含む）

（１）「エコシティたかつ」について

（２）令和元年度の取り組みについて

（３）令和２年度推進事業の進め方について

（４）最近の適応策に関する動向等について

「 大地のデコボコから、自分のまちの防災を考える

～小学校敷地丸ごと３Ｄ化プロジェクトの成果から～ 」

（明治大学理工学部教授 田中 友章）

「 流域治水の考え方について 他 」

（慶應義塾大学名誉教授 岸 由二）

５ その他

（１）かわさきカーボンゼロチャレンジ 2050 の取組について

６ 閉会

<配布資料>

資料１ 「エコシティたかつ」推進方針（抜粋）

資料２ 「エコシティたかつ」推進方針（本編）

資料３ 「エコシティたかつ」の推進に向けた総合的な展開

資料４ 「エコシティたかつ」推進事業２０１９年度概要版

資料５ 令和元年度「エコシティたかつ」推進事業報告書

資料６ 「エコシティたかつ」推進事業 令和２年度スケジュール

資料７ 「学校流域プロジェクト」、「たかつの自然の賑わいづくり」事業の進捗状況について

資料８ エコシティツアー及び「エコシティたかつ」推進フォーラムについて

「エコシティたかつ」推進方針

(2009年3月策定、
2019年3月改定)

＜「エコシティたかつ」推進方針とは・・・＞

地球環境危機の時代において、高津区で顕在化している自然環境、社会環境、生活環境に関する諸課題に対し、地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に取り組むための基本的な方針です。

基本理念

地球環境危機の時代に対応した、自然の賑わいとともにある持続可能な循環型都市構造の再生と創造



緩和策・適応策・生物多様性保全への貢献を、「流域」という枠組みで統合していく「エコシティたかつ」の長期環境戦略



＜基本目標＞

緩和策

① 低炭素・省資源社会の実現

私たち一人ひとりが身近なアクションをおこし、地域／地球の二酸化炭素の削減につなげ、資源を有効に活用します。

生物多様性

② 自然共生型都市再生の推進

丘陵などランドスケープを重視した、生命（いのち）の賑わい豊かな自然共生型の都市再生を地域から推進します。

適応策

③ 地域に即した防災まちづくりの推進

深刻化する局地的な豪雨や洪水、渇水に対し、流域の水循環に即した“水災害適応型都市”づくりを推進します。



＜実現に向けた基本的な考え方＞

エコじゃ、エコは進まない！

① 環境的・社会的・経済的持続可能性の実現

環境的視点を重視しながらも、社会的視点や経済的視点を取り入れた取組を推進することにより、持続可能な都市をめざします。

大地の“でこぼこ”を考えたプランニング

② 地域の流域特性に根ざした事業推進

基本的な地形に配慮し、それぞれの流域に根ざした緑地保全や健全な水循環系システムを構築することは、地球温暖化に伴う自然災害への適応策として、市民が安全に暮らしていくことのできる水災害に強い都市の基盤づくりとなります。

まちのみんなで進めよう！

③ 多様な主体の協働・連携による推進、区民の参加促進と担い手の育成

区民、企業、学校、行政等の多様な主体が情報共有を進め、共通の目標に向かって、それぞれの役割と責任の中でできることを行い、連携することで大きな推進力を生み、相乗的な事業展開や新たな取組の誘発につなげることが大切です。

区役所の事業をエコから捉え直す

④ 区の事務事業の環境視点からの見直しと総合的展開

区役所の事業を環境的視点から捉え直し、必要に応じて区役所が実施する各事業間の連携を進めることにより、効果的・効率的に「エコシティたかつ」を推進していきます。



・・・わたしと地球をつなぐ街・・・

「エコシティたかつ」推進方針

平成 3 1 （ 2 0 1 9 ） 年 3 月

川崎市

「エコシティたかつ」の推進に向けた総合的な展開



2009年度から2013年度までの取組

＜学校流域プロジェクト＞

学校を健全な水循環と生きものの賑わいを再生し支える地域のモデル基地と位置づけ、環境学習を実施する。
○ 小学校(14校)と市立養護学校にビオトープ整備 ○ 環境学習支援

＜「たかつ自然の賑わいづくり」事業＞

水系や流域等のランドスケープや生物多様性の視点を踏まえ、区内の河川の小流域を単位として、水・緑・生きものの調査を市民協働で実施し、適応策として地域から様々な活動を通じて、保水力・土砂防災力の高い流域づくりへの貢献及び自然の賑わいの回復を目指す。
○ 「たかつ水と緑の探検隊」による取組を市民健康の森・緑ヶ丘霊園で実施(生物の生育状況や保水力の状態の調査)
○ 調査結果に基づく外来植物の駆除作業・保水力向上の取組

＜農的資源を活かしたまちづくりの推進＞

「たちばな農のあるまちづくり」を推進する。
○ 農産物の紹介販売 ○ 農業体験
○ ファーマーズマーケット「さんの市」の開催
○ メサ・グランデ事業の実施

＜エコシティホール化の推進＞

区役所庁舎を環境展示場「エコシティホール」とし環境学習の場として活用した環境啓発を実施する。
○ 屋上緑化 ○ 壁面緑化(緑のカーテン) ○ 雨水利用 ○ 太陽光発電
○ 自動灌水装置 ○ エコシティホールツアー
○ 産学官連携による共同研究(スナゴケを用いた屋上緑化の効果の検証)

＜各種普及啓発活動の推進＞

今日的な課題に対し、区民向けの各種普及啓発活動を、区民協働(市民・事業者・学校)で実施し、その中で「地球温暖化防止活動推進センター」等との連携を模索する。
○ エコ・エナライフコンクール ○ 緑のカーテン講習会 ○ エコシティたかつ応援団
○ 「エコシティたかつ」推進フォーラム ○ 「エコシティたかつ」推進会議
○ CCかわさき交流コーナーにおける「エコシティたかつ」パネル設置

＜その他＞

○ 地図による地域環境資源の共有化の促進(立体地形図の作成、ベースマップ作成、ヒートアイランド・クールスポット調査の実施)
○ まちなか油田プロジェクト(廃食油の回収、BDFの運行(かえるプロジェクト))
○ エコ企業調査の実施(民間企業等7事業所等を視察)
○ 行政区レベルでの環境マネジメントの実践的な取組
○ 「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」の推進
○ 円筒分水、かすみ堤を活かした「緑の回廊」づくりの推進

成果と課題

○ 計15箇所のビオトープを整備し、取組の拠点を作り、環境学習を実施することができた。
● 健全な水循環のモデルとなる取組を推進する必要がある。
● 地域のモデル基地となるよう学校や地域への働きかけが必要である。

○ 「たかつ水と緑の探検隊」による、生物多様性・保水力向上について試行的な取組を行うことができた。
● 試行における経験を活かし、生物多様性・保水力向上について実践的な取組を行う必要がある。

○ さんの市など、「たちばなブランド」農産物の購入や食事ができる仕組みを作ることができた。
● 援農に対する農家・区民の期待が大きい。
● 区内の農的資源の把握を進める必要がある。
● 農的資源について生物多様性や適応策の観点から評価し、取り組む必要がある。

○ 区役所庁舎内において緑化や環境技術の導入を行うことができた。
● 区役所庁舎だけでなく区内公共機関等への面的な広がりを図る必要がある。

○ 各種啓発イベント等を実施し、環境意識の向上や「エコシティたかつ」の取組のPRを行うことができた。また、緑のカーテン(ゴーヤ等)についても普及することができた。
● これまでの取組を継続するとともに、関係機関と連携した様々な機会や手法を活用した取組を行う必要がある。
● エコ・エナライフの普及(エコエナライフコンクール)については、新たな取組の手法を検討する必要がある。

今後の取組の視点

● これまでの成果を踏まえ、各プロジェクトを流域思考に基づき「緩和策」、「適応策」、「生物多様性」の視点から、社会状況や自然環境の変化に対応した、面的な広がりや質的な向上を図っていく必要がある。
● 緩和策については、区民や関係団体の取組が充実しており、引き続き連携を行っていく必要がある。
● 適応策と生物多様性については、関係団体との連携により、一層の実践的な取組や普及啓発を推進していく必要がある。

推進方針に基づく2014年度以降の取組(方向性)

＜学校流域プロジェクト＞

適応策

生物多様性

完了
○ ビオトープ整備(子母口小、2015年度) ○ 環境学習支援 ○ 教職員向け学習会
● 学校を流域に見立てた、健全な水循環のモデルとなる取組(雨水貯留・雨水循環の仕組み等)の検討
● 地域に開かれたビオトープとするためのボランティアスタッフの育成の検討

＜「たかつ自然の賑わいづくり」事業＞

適応策

生物多様性

● 試行における経験を活かした、「たかつ水と緑の探検隊」における生物多様性・保水力向上の実践(取組場所:緑ヶ丘霊園)

＜農的資源を活かしたまちづくり＞

緩和策

適応策

生物多様性

○ 「たちばな農のあるまちづくり」の推進(「さんの市」の拡充、援農の拡充等)
● 区内の農的資源の活用に向けた調査・検討

＜生物多様性の視点を踏まえたエコ・コミュニティづくり＞

緩和策

適応策

生物多様性

生物多様性の視点から、生き物の生息・生育の拠点となる緑や水を維持・拡大・創出するとともに、拠点間における連続性の確保を図るとともに、取組を推進するための関係機関のネットワークを構築する。
○ 久地緑地・円筒分水・かすみ堤等を活かした緑の回廊づくり
○ 「エコシティたかつ」応援団 ○ エコ企業調査
● 公園や学校ビオトープ等を活用した取組の推進

＜環境技術等の導入の推進＞

緩和策

適応策

区役所庁舎の「エコシティホール化」を継続するとともに、区内公共施設や企業等における環境技術や環境に配慮した取組等の導入を推進する。
○ 区役所庁舎の「エコシティホール化」の推進
● 溝口駅周辺のエコ化の推進 ○ 区内公共施設や企業等への導入の促進
● 市民主体の各種プロジェクトとの連携

＜各種普及啓発の推進＞

緩和策

適応策

生物多様性

環境教育・環境学習等を実施し、環境配慮意識を広めるとともに、環境に配慮した取組を積極的に実践する人材を育成する。
○ エコシティホールツアー ○ エコ・エナライフの普及啓発
○ 「エコシティたかつ」推進フォーラム ○ 「エコシティたかつ」推進会議
● エコシティツアー ○ 雨水樽・雨水浸透マス等の普及促進

＜区内環境資源等の情報収集・共有＞

緩和策

適応策

生物多様性

区内の環境資源や環境関係団体に関する様々な情報を収集するとともに、収集した情報を多様な主体による取組につなげるために、誰もが活用できるようにわかりやすく情報発信する。
● 地域の環境資源や環境関連団体の情報収集とマップや模型による情報共有
● ICTを活用した情報発信・共有の検討
● ヒートアイランド・クールスポット調査の展開

環境まちづくり普及啓発事業

～小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト～

小学校敷地を小流域と見立てて、当該エリア内の流域での自然の地形（大地のデコボコ）を前提とした水の流れを総論し、適応策（賢い雨水の引き受け方）を考える機会を提供します。

●3次元スキャナーによる計測

明治大学理工学部建築学科 田中研究室と協働で、川崎市立南原小学校敷地を対象として、3次元スキャナーを用いたデータ計測を行い、その計測成果についてビジュアライズを行いました。

●川崎市立南原小学校での出張授業

取組の成果物を用いて、南原小学校の5年生を対象に「大地のデコボコから、みんなのまちの防災を考えてみよう！」と題して出張授業を行いました。



区内の農的資源を活かしたまちづくりの推進

- ファーマーズマーケット（高津さんの市）の開催・定着化
- 農業体験の実施
- 地域交流拠点との連携
- 区役所レストランで区内で取れた野菜を使ったメニューを提供
- 「高津のさんぽみち」を活用した風景撮影ツアーの実施
- SNSを活用し区内・映える・風景を募集するフォトコンテスト



みんなで進めよう！「エコシティたかつ」

「エコシティたかつ」は、高津区で生活し、学び、働き、活動する私たちが、それぞれの立場でできることを行い、相互に響き、支えあうことで、大きな推進力が得られます。みなさんも一緒に「エコシティたかつ」の活動を進めませんか。



「エコシティたかつ」協賛・協力企業

NECプラットフォームズ株式会社、株式会社川崎フロンターレ、久政農園、株式会社土器屋、株式会社オテルくSP、株式会社丸井、森正興産場（御株様、50名額）

連絡先：
川崎市高津区役所
企画課
電話：044-861-3131 / FAX：044-861-3103
メールアドレス：87kikaku@city.kawasaki.jp

エコシティたかつ
検索
クリック!

「エコシティたかつ」推進委員 2019年度 新田善雄氏
発行日：令和2（2020）年 3月
発行所：川崎市「エコシティたかつ」推進委員
事務局：川崎市高津区役所
デザイン：専任会社 T-UPIT

…わたしと地球をつなぐ街…

エコシティたかつ

推進事業 2019年度

基本理念

地球環境危機の時代に対応した、自然の賑わいとともにある持続可能な循環型都市構造の再生と創造
100年後のたかつのまちのために

「エコシティたかつ」の基本目標

種別

低炭素・省資源社会の実現

私たち一人ひとりが身近なアクションをおこし、地域/地球の二酸化炭素の削減につなげ、資源を有効に活用します

適応策

地域に即した防災まちづくりの推進

深刻化する局地的な豪雨や洪水、渇水に対し、流域の水循環に即した 水災害適応型都市・づくりを推進します



自然の賑わい・生物多様性

自然共生型都市再生の推進
丘陵などランドスケープを重視した、生命（いのち）の賑わい豊かな自然共生型の都市再生を地域から推進します

・流域・とは、降った雨が集まる、大地の範囲・領域のことです。

自然の賑わい・生物多様性とは

池や湿地、森など多様な生態系に、たくさんの生きものが相互に関連しながら生息している状態のことです。



2019年度の プロジェクト報告

学校流域プロジェクト

学校にビオトープ(池や山原、林など)や雨水利用施設を整備し、生きものや水循環について子どもたちが学ぶ場を作るプロジェクトです。

●環境学習支援

区内市立小学校14校と中央支援学校に對し、ビオトープ等を活用した生き物の採取・観察や、砂場を利用した流れる水の働きなどの、体験活動を通じた環境学習を実施しました。

また、学校でのビオトープの活用を進めるため、区内小学校教職員を対象に研修会を実施しました。



区役所の緑化等、環境技術導入によるエコシティホール化の推進

区役所庁舎では、屋上太陽光発電システム、職員手づくりのビオトープ、ペットボトルキャップから作られたベンチ、光触媒看板など、環境に関するさまざまな取組を、例として展示しています。

●エコシティホールツアーの開催

川崎市地球温暖化防止活動推進センターと協働で、小学生を対象に区役所の環境に配慮した取り組みを紹介するエコシティホールツアーと、簡単に作れるミニソーラークッカーの工作を行いながら自然エネルギーを学べる体験教室を開催しました。



「たかつの自然の賑わいづくり」事業

専門家と一緒に、水・緑・生きもの調査(外来の植物や生きもの探しも含む)を行い、さまざまな活動を通して、地球温暖化対応策・生物多様性保全への貢献を市民協働で行うプロジェクトです。



●たかつ水と緑の探検隊

川崎市立緑ヶ丘霊園内の森の一部では、常緑樹により林床が暗く、下草が少ないため、保水力が低下しています。

霊園内の谷戸の森をモデル地区として、間伐による健全な森の再生や、ホタルやトンボが舞う谷戸づくりを目指して、下作延小学校の児童と間伐などを行いました。

●たかつ生きもの探検隊(小学生向け)

専門家と一緒に緑ヶ丘霊園内の森を探索し、生きもの探しなどを実施しました。神奈川県では準絶滅危惧種に指定されているムネアカセリコガタネを捕まえるなど、楽しみながら自然の生態について学びました。



エコシティツアー

「エコシティたかつ」推進会議委員同士の相互理解を深め、協働や連携を進めるためにエコシティツアーを実施しました。委員や関係者を対象に、団体推薦委員(区内企業)である株式会社富士通ゼネラル様の環境活動の紹介と本施設の見学などを行いました。



令和元年度
「エコシティたかつ」推進事業
報告書

令和2年3月

川崎市高津区役所

「エコシティたかつ」推進事業 令和2年度スケジュール

0901時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学 校 流 域 プ ロ ジ ェ ク ト			● 学習支援 ・区内市立小 学校及び中央 支援学校で学 習支援の実施 を予定									→
「たかつの自然の賑わいづくり」事業						● 9/13 たかつ生きもの探検隊 ※ 小学生向け				● 水と緑の探検隊 (仮)		
普 及 啓 発 イ ベ ン ト の 実 施	● デジタルサイ ネージを活用し た普及啓発						● エコシティツ アー(仮)		● 推進フォーラム(仮)			→
橘 地区の農的資源を活かしたまちづくり の 推 進							● 10/4 親子で楽しむ 秋の農体験 ● 10/20 さんの市	● 11/10 ステキに映え農 フォトツアー	● 12/15 さんの市 ● 12/10～17 高津市民館で写真展 ● 12/18～24 区役所市民ホールで写真展		● 2/16 さんの市	
「緑と水でつながる 歴史街道 花街道」の 推 進		● 5/19 「区民ミニ・ガーデン」 運営委員会(第1回)				● 9/4 「区民ミニ・ガーデン」 運営委員会(第2回)		● 11/15 溝口駅前キラリ デッキ植栽体験イ ベント(小学生親 子優先) ● 「区民ミニ・ガー デン」三役会	● 12/6 花街道植栽体験イベ ント ● 「区民ミニ・ガーデン」 運営委員会(第3回)			● 「区民ミニ・ガー デン」運営委員会 (第4回)、三役会
小 学 校 敷 地 丸 ごと3D化プロジェクト									● 小学校で出張授業 ※ 時期未定			
「エコシティたかつ」推 進 会 議						● 9/16 第1回推進会議					● 第2回推進会議	

「学校流域プロジェクト」「たかつ生きもの探検隊」の進捗状況について

1 学校流域プロジェクトについて

学校にビオトープや雨水利用施設を整備し、生きものや水循環について子どもたちが学ぶ場を作るプロジェクト

2 ビオトープを活用した環境学習支援の実施状況について

学校名	実施日	学年等
子母口小学校	11月10日（火）	5年生5クラス
新作小学校	日程未定	飼育委員会
東高津小学校	7月30日（木）	6年生5クラス（171名）
坂戸小学校	10月15日（木）	5年生3クラス
久本小学校	7月27日（月）	5年生4クラス（144名）
梶ヶ谷小学校	6月30日（火）	3年生4クラス（146名）
西梶ヶ谷小学校	8月21日（金）	3年生3クラス（87名）
上作延小学校	日程未定	5年生3クラス
橘小学校	新型コロナウイルス感染症の影響で中止	
末長小学校		
下作延小学校		
高津小学校		
久末小学校		
南原小学校		
久地小学校		
中央支援学校		

3 ビオトープを活用した教職員向け環境学習研修会の開催について

新型コロナウイルス感染症の影響で中止

4 たかつ生きもの探検隊の開催概要

- (1) 日 時 令和2年9月13日（日） 10時00分～11時45分
- (2) 会 場 せせらぎと親子広場
- (3) 参加者 小学生と保護者13組で29人（小学生15人、保護者14人）
- (4) 内 容
 - 多摩川の地形などについて説明
 - 生きものの採集と解説

エコシティツアー及び「エコシティたかつ」推進フォーラムについて

1 たかつエコシティツアー

- 趣 旨： 推進会議の委員の方々にお互いの環境への取組について知る機会を設け、ご自身の活動への動機付け等図ることを通じて多様な主体の協働・連携の推進を図るもの。
- 日 時： 令和2年10月又は11月の平日、約2時間
- 場 所： マルイファミリー溝口・ノクティプラザ（川崎市高津区溝口1丁目4-1）
- 対 象： 「エコシティたかつ」推進会議委員
- 内 容： 「みんなで地球をまもろう！」をテーマに再生可能エネルギーへの転換、ゴミの資源化、生物多様性への取組などを積極的に行っているマルイファミリー溝口・ノクティプラザの環境活動紹介及び意見交換会と、エコファクトリーや緑化施設他の見学を予定しています。（第8回スマートライフスタイル大賞最優秀賞受賞）



レイアウト・案内表示の刷新や床・壁・照明を改善し、誰もが安心して分別できる環境を整えたエコファクトリー

2 エコシティたかつ推進フォーラム

- 趣 旨： 区民の気候変動適応策や生物多様性保全等に関する意識啓発を図るとともに、「エコシティたかつ」の取組に対する理解向上を図る広報事業として実施
- 経 緯： 平成30年度まで本事業の啓発を目的としてフォーラム形式でイベントを開催してきたが、年々集客が難しくなっている。今年度は試行的に地域の方が多く集うイベントに参加し、より広い情報発信に取組、次年度以降を見据えた検証を行いたい。
- 方 向 性： 既存のイベントに参加を検討
- 候補： ◎かわさき環境フォーラム（12月）、○あんあんフェスタ（3月）
- 内容(案)： パネル、立体模型などの展示

令和2年度第1回「エコシティたかつ」推進会議 摘録

- 日 時 : 令和2年9月16日(水) 13:00~15:00
- 場 所 : 高津区役所 5階第1、第2会議室
- 出席者 : 岸先生・田中先生・竹井委員・徳武委員・加藤(伸)委員・仲村委員・加藤(祐)委員(オンライン参加)・今川委員・竹内委員・川田委員・五十嵐委員・小沼委員(代理:近藤)・押田委員・小森委員
- 欠席者 : 平澤委員・吉岡委員・遠藤委員・山内委員・石井委員・岩上委員
- 傍 聴 : 3名
- 配布資料 : 資料1 「エコシティたかつ」推進方針(抜粋)
資料2 「エコシティたかつ」推進方針(本編)
資料3 「エコシティたかつ」の推進に向けた総合的な展開
資料4 「エコシティたかつ」推進事業2019年度概要版
資料5 令和元年度「エコシティたかつ」推進事業報告書
資料6 「エコシティたかつ」推進事業 令和2年度スケジュール
資料7 「学校流域プロジェクト」、「たかつ自然の賑わいづくり」事業の進捗状況
資料8 エコシティツアー及び「エコシティたかつ」推進フォーラムについて

■ 議事概要

進行: 勝野企画課長

1 開会

進行役の企画課勝野課長が、開会を宣言した。

2 区長あいさつ

【鈴木高津区長よりあいさつ】

この4月に区長を拝命しました鈴木です。昨年度は副区長では委員として参加させていただきましたが、今年度も引き続きよろしくお願いします。

本日は皆さまこういう状況にも関わらずたくさんお集りいただきましてありがとうございます。また、こういう状況だからこそオンラインでご参加いただいている皆さま方も色いろご負担ご迷惑をおかけしますけども、ありがとうございます。よろしくお願いいたしますと思います。

平成20年度にエコシティたかつ推進方針を策定して活動、取り組みを続けてまいりました。昨今の巨大台風、昨年の台風19号等でも大変被害を受けたところですが、今年もまた台風の被害なのか、遠因なのか、アメリカでもすでに雪が降ったりとか、サンマが不漁だったりとか、色いろなことが言われております。エコシティたかつの推進方針で取り組んでまいりました適応策がまさにこれからこういった形で取り組まれるか注目を浴びているところだと思います。そんな中で今日のこの会議、後ほどご講話いただくとありますが、岸先生あるいは田中先生のお話にも色いろ示唆をいただきたいと思いますので、引き続き最後までのご参加をお願いして冒頭のごあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。よろしくお願いいたします。

※ 進行役が会議公開について委員に了承を得た。

※ 傍聴者に対して注意事項の遵守を呼びかけた。

3 委員自己紹介

各委員が、名前と所属等を述べて自己紹介をした。また、進行役が名前を読み上げて事務局及びコンサルタントを紹介した。

4 議事（質疑応答含む）

以下の議事進行は、岸先生が担当

議事に先立ち、事務局が配布資料の確認をした。

（１）「エコシティたかつ」について

事務局が資料 1～資料 3 を用いて、「エコシティたかつ」について説明をした。意見、質問等は特に無し。

（２）令和元年度の取り組みについて

事務局が資料 4、資料 5 を用いて、令和元年度「エコシティたかつ」推進事業の取り組み内容について説明をした。意見、質問等は特に無し。

（３）令和 2 年度推進事業の進め方について

事務局が資料 6 を用いて、令和 2 年度「エコシティたかつ」推進事業の進め方について説明をした。また資料 7 を用いて、「学校流域プロジェクト」と「たかつの自然の賑わいづくり」事業の進捗状況及びエコシティツアーと「エコシティたかつ」推進フォーラムの開催予定について説明をした。意見、質問等は特に無し。

【意見交換】

（１）～（３）までの説明を受け、意見交換を行った。主な意見は以下の通り。

- ・「かわさき環境フォーラム」は、12 月 13 日（日）を予定している。「エコシティたかつ」推進フォーラムで出展を検討していただいているということでありがとうございます。ただ今年はこの環境なので、従来は不特定多数の来客を想定した開催だが、今年はセミナー等は事前受付制で人数限定で考えている。そういった形で協力できればと思っている。（竹井）
- ・市民健康の森は活動日が木曜日で、20 数名が参加している。この対策として、外部で活動するので密については考えることは無いが、一般的なことで協力しようということで、25、6 人を二つの班に分けて、木曜日の班と日曜日の班に分けて活動をしている。毎年行われていた 5 月末のホタル観賞会は中止にしたが、ホタルは自然に飛ぶので中止にしてもそれなりに常連さんがいて、毎晩 100 人程度が来て、それなりに賑やかになっている。今年は特性のうちわを配り皆さんに喜ばれた。

また今年も一般公募により、菜園体験教室を募集した。今年は 6 人だが、じゃがいもの種付けから収穫まで。それから市民参加による親子さつま芋堀り体験を今参加者を募集している。多分地域振興課に相当集まってきたと思う。30 名を見込んでいるが、その 5 倍くらい来るので、厳選な抽選をして行う予定だ。そのために菜園体験教室に来ている皆さんにさつま芋を植えてもらい、その手入れに熱を入れている。それが 10 月ころなので、楽しみにしている。

この時期なので週に一回の活動日ではとても草刈りが大変だ。一週間休むと一面に、機械が使えないくらいに草が伸びるので、無理してでも毎週一回、少人数でもとりあえず下草刈りをするということで実行している。

これらの活動を、区役所の地域振興課の皆さんと、道路公園センターの皆さんの協力を得まして活動しているので、ご報告したいと思う。(徳武)

- ・今年も台風が来て多摩川がどうなるのかとても私は心配している。去年の台風の後凸凹マップに色いろな事例を書き足していくと良いというアドバイスがあったかと思うが、高津区では聞き取り等を行っているのかが気になる。

エコシティツアーでマルイに伺うのが楽しみだ。(加藤(伸))

⇒ 昨年度の推進会議の中で、凸凹マップに台風 19 号の浸水エリア等をプロットし更新することが大事ではないかという意見をいただき、今年度その作業を進めている。新たな版を作る予定なので、また情報提供させていただければと思う。(事務局)

- ・今年前半のファーマーズマーケットは全部中止になった。不特定多数を対象にした事業なので、コロナ対策をどうするか準備中だ。参加する方が限定出来る事業については、三密を避けるようにし、定員を減らしての実施でチラシを配った通り実施予定だ。10 年目になったので、少しやり方を見直したら良いんじゃないかということで、事業が少ない分委員会で意見交換をしたり農家にヒアリングし現状を伺う活動をやってみようかということで、少しやり始めたところだ。こんな状況なので、他の団体と連携しながら意見をいただいたり、ご一緒して何かする機会を積極的に取り入れ少しやり方を変える模索のヒントになればと思っているので、何かご意見があればいただきたいと思う。(中村)

⇒ 教え子が千葉で大きな農業をやっているが、今年は長雨でナスだとかキュウリがめちゃくちゃになり、しかも暑さが続いているから大根の種を植える決断、失敗するかも知れない緊張があるのだが、そんな話は今年はどうか？(岸)

- ・去年の台風で被害があった農家が何軒もあり、モチベーションが下がったと聞いていた。今年もやはり 7 月の長雨と 8 月の日照りで農作物は本当に少なく、逆にファーマーズマーケットが無くて良かったね、出品する物が少ないよみたいと感じた。おかげ様でファーマーズマーケットはやれなかったが、直売所マップを作り直接買いに行きたいという人もいるということで、そういうところでは生産物がどうなっているかは私自身が聞き取りに行っているわけではないのであれだが、本当に都市農業って大変なんだなということを改めて実感している。これから問題点等も、世代交代ではないが若手の農家に少し聞き取りをしたいと考えている。(中村)

⇒ 今日は農政局が来ていないから話をしてもしょうがないが、作付けの形そのものを変えなくてはいけないということだろう。(岸)

- ・学校の方がコロナの関係で休校措置が取られ、6 月からの分散登校を経ての三週目からの学校再開になった。それにともないさまざまな学校の教育課程がズレこんだので、これまで色いろとご支援いただいている先ほど報告のあったビオトープの学習支援等もなかなか入っていただくことが出来なかったが、それでも新型コロナウイルス拡大防止策を講じた上で、学校と相談の上実施をしていただける状況については非常にありがたく思っている。このような子どもたちの学習、学びを深めていく活動なので、今後もぜひ継続していただけたらと思う。(押田)
- ・先ほど事務局から説明があった通り、資料 6 の 5 段目「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」の推進について、道路公園センターが担っている。区民ミニ・ガーデンというボランティア団体があり、高津区役所から洗足学園の前まで、野川柿生線のいわゆるたかつ花街道の沿道 11 か所と、区内の公共施設を加え 14 か所の花壇、コンテナを区民ミニ・ガーデンが維持管理を行っている。その事務局を道路公園センターが行っている。先ほど来、コロナ禍の事業の縮小という話が出て

いるが、9月4日の第2回の区民ミニ・ガーデン運営委員会の中でも、11月に行うキラリデッキの植栽体験や12月に行うたかつ花街道の植栽体験についても、募集をかけると40名くらいは応募がある中で、今回については募集人数を縮小するなり、募集をやめてメンバーだけで行くなり、密を避けるという形で行って行こうかということで、どうしても事業を縮小せざるを得ないと運営委員会で決定されたところだ。そこら辺の工夫をしながら、今年度のイベントを進めていきたいと考えている。(小森)

- ・建設緑政局は名前の通り建設と緑政を扱う局ということで、道路や河川、緑を扱っている。本来は局全体の業務に通じる企画課長の小沼が委員として参加する形となっているが、議会の関係で本日は欠席のため、代理として私近藤が出席させていただいている。私は今年4月から河川計画業務担当として着任し、エコシティたかつに直接関係しないかもしれないが、私が扱っている業務の中から2点ほど紹介させていただく。1点目が、今年の3月10日に二ヶ領用水が文化財登録をされたことについて。今年は文化財登録に伴うイベント等を開催し、二ヶ領用水の近隣に住んでいる方や地域の団体の方と密に連絡を取り合いながら、イベント通じてより地域と密着し、維持管理や河川を身近に触れあっていただくイベントを予定していたが、コロナの関係でイベントは中止とさせていただいた。その代わり、ちょうど今大山街道ふるさと館で二ヶ領用水に関する企画展を行っており、そちらに文化庁の方から文化財登録の記念名板が届いたので合わせて飾っている。もし近くに足を運ぶ機会があればぜひご覧になっていただければと思う。

2点目に、岸先生からも流域治水の考えについてお話があり、後ほどご説明があるかと思うが、河川計画ということで治水に関する業務も扱っている。その中で、昨今道路や橋は新技術と言われる、ドローンや3D化など、そういった技術が活用されているが、なかなか河川に関してはその技術を使って治水だとか従来の河川構造物の維持管理に活用するのが、全国的に確立されていない。そういったところに川崎市では着目し、今現在、川崎市内の企業に関わらず全国的に河川に関する技術の研究をされている方を、川崎市内の中小河川を実証フィールドという形でお貸しし、河川に関する新技術の研究等を進めていただいている。そういった取り組みを踏まえて、高津区に限らず市内全域のこういった治水に関する取り組みに役立てていただければと考えている。(小沼(代理：近藤))

⇒ 私は鶴見川の総合治水や水マスタープランの詳細に関わっていて、関連の国の仕事もずっとやっているのですが、今話のあった二ヶ領用水というのが実は極めて重要な水路で、川崎市はこれを文化財ということで扱われるが、上流部一級河川を県が管理していて、平瀬川と合流してから北が文化の水路ということになっていて、多分ここで言われている文化財指定を受けたのは旧河川部分は除いて円筒分水から下だ。どこまで入れるのか分からないが、大乘院のところまで分岐していて実は二ヶ領用水の水はほとんど鶴見川に入っている。鶴見川から見ると二ヶ領用水というのは洪水を運んでくる極めて危険な水路だ。川崎市にはその認識がほとんど無い。いずれお話をさせていただくことになるだろうが、鶴見川から見ると二ヶ領用水は単なる文化の水路ではなく、極めて危険な洪水を運んで来る水路だ。高津区は水マスタープランに入っているもので、そういう問題もぜひ忘れずに、いずれじっくり話をしたい。(岸)

- ・これまで地球環境推進室は計画班の者が出席していたが、今回初めて協働推進として参加した。高津の取り組みとは外れてしまうが、協働推進で携わっている事業を一つ紹介する。協働推進の方でCCかわさきエコ会議というさまざまな主体が参加する会議体の事務局をやっているが、脱炭素や低炭素社会に向けた取り組みをしている多様な主体方に応募していただいたスマートラ

イフスタイル大賞の事務局をしており、今回最優秀賞が二つ決定した。一つ目が東急 REI ホテルという臨海部にあるホテルだ。こちらは昭和電工の廃プラを使った電力で3割まかなっているが、それにプラスして食物残さを使い JFE の関連のフードリサイクルという会社で、電力化しそちらの食物残さを使った電力プラスと、同じく JFE 傘下のアーバンエナジーの再生可能エネルギー100%の電力を使って、日本初の CO2 フリーホテルを実現したということで応募をいただきこれが大賞の一つ選ばれた。もう一つがパスポートスタイルという業務スーパーを運営している会社と社会福祉法人はぐるまが連名で応募していただき、これが業務スーパーの方で余った食物残さを一次発酵させ、それをはぐるまに差し上げて、二次発酵させてそれを堆肥としてはぐるままで持っている農園で農産物を育てている。それをまた業務スーパーの方で販売するというような、主体が違うが大企業と中小企業、また社会福祉法人という多様な主体だが、資源循環という取り組みで今回二つが大賞を取ったのでご紹介させていただいた。こちらが 10 月 30 日にフォーラムを開き、コロナの影響で無観客でやらせていただくが、こちらで、またホームページでご紹介させていただく予定もあるので、ご興味のある方はぜひご覧になっていただければと思う。(五十嵐)

- なかなか今皆さまからお話があったように、前半、とくに 4 月、5 月、6 月はコロナの関係で地域の方に、皆さま方の方にも入って行けなかったということがあり、最近地域振興課や企画課を中心として、地域の皆さまとまた色いろやらせていただいているので、今後ともよろしく願いしたい。(川田)
- 先ほど事務局の方からご案内があった、この秋のエコシティツアーのお話があったと思うが、まだ日時が決まっていないが、10 月か 11 月、ぜひこの会議のメンバーの皆さまに見ていただいて、ノクティプラザさんの力がすごく大きい、ゴミの収集のエコファクトリーだとか色いろ店内や屋上だとか、色いろなところで色いろな取り組みをしていますので、ぜひ見ていただいて、ご意見とかアドバイスをいただければ、マルイとしても幸いかなと思っていますので、ぜひ日時が決まりましたらご参加いただければと思う。(竹内)
- スケジュールを見た感じで行くと当社が活躍出来る場所が無いなと思って見ていたが、当社としても色いろ案だが練っていることがあり、昨年当社を見ていただいたと思うが、その中でエビネランは実際に咲いた時に見ていただきたいなというところもあるし、弊社は静岡の浜松市にリサイクル工場を持っているが、そこのビデオを皆さんに見ていただき、家電というのはこういった形でリサイクルされているよと、そのようなものも見ていただきたいとか、先月小学生向けでゴミと家電リサイクルと水について勉強をしたが、その時に学校の先生と話しをしたら、結構皆さんエアコンの省エネの仕方を知らないということで、当社はエアコンを作っている会社なので、地域の皆さんを集めてエアコンのお得な使い方教室を開きたい等を考えていたところがあったので、今後区役所の方と詰めて、今年、令和 2 年度に入れられるかどうかは分からないがそういったこともやって行きたいなと思いますのでよろしくお願いしたい。(今川)
- 初めて参加したが、皆さんの話を伺い勉強になっている。私たちもサポーターの方がたくさんいるし、スクール生の子どもたちもたくさん在籍しているので、皆さんの活動をサポートしていけたらと思う。勉強させていただき皆さんに伝えるところをしていけたらと思う。(加藤 (祐))

(4) 最近の適応策に関する動向等について

岸先生、田中先生が、最近の適応策に関する動向等についてプロジェクターにより画像等を用いて話題提供を行った。主な内容は、以下の通り。

- 「大地のデコボコから、自分のまちの防災を考える～小学校敷地丸ごと 3D 化プロジェクトの成果から～」(明治大学理工学部教授 田中 友章)

私の方からは話題提供を兼ねて過去数年間やってきたことの話をしていただこうと思います。今岸先生からも話がありましたが、この三年間環境まちづくり普及啓発事業の一環として小学校敷地丸ごと 3D 化プロジェクトというのをやってきました。これが何であるか、どういう風な経緯で始めたかを簡単に説明させていただきます。私の研究室では、3D 点スキャナーとか 3D 計測技術を使った敷地計画の研究をしています。これは私たちの生田キャンパスの一部ですが、見ていただくと分かるように建物って広い敷地に建っていて、建物があったり、建物が建っていないオープンスペースがあって、そこには樹木が植わっていたりベンチが置いてあったり、色いろなもの、こういうものが私たちの周りの環境の総体を作っているの、建物のことだけを考えるのではなくて、総体を考えたいということで色いろと研究をしています。

先ほどお話したように 3D スキャナーとかそういう技術を使っていますので、在り様をそのまま測って研究に使っています。使ってきた中でいくつか良いことが分かることがあり、今言ったようにこの状況のありのままを測れるというのが良いことです。それから普通測るというのは何を測るのかを決めて距離等を測るんですけど、これは全部点の集まりなので何億点の点の座標と色を持っているので、事後的に好きなところを見れる。それからこういう色いろな要素があるのを絵で見て分かりやすく分析することが出来ます。それから、今これを測って、半年経って測って、二年経って測ってとすると、後から失われてしまったものを見ることが出来たりするので、そういうことが特徴としてあります。こんなことが使っているうちに分かってきたので、これを一般の人たちにも分かりやすく、こちらがすごく偉そうな情報を持っているので有難いでしょと見せるのではなくて、皆さんに投げて面白いよねとやり取りが出来る道具として非常に重要です。これは多分、ちょっと難しい言い方をすると科学の民主化と言いますが、皆さんで地域にいる人と双方向でものを考え、未来の姿を考えるための道具としても非常に大事だということを考えて、意識して研究しています。

その中でエコシティたかつのプロジェクトに長らく関わってきましたが、最初何をやって良いか分からないので、こういう技術があって、小学校に入らせていただこうということで、2017 年から 3 年間 3D 化プロジェクトを始めました。最初橘小学校と南原小学校に入らせていただきましたが、南原小学校が総合的学習でやっている取り組みとうまくコラボが出来たので、それ以来続けてやらせていただいています。最初にこのエコシティの中でも、川崎市のデジタル地形図からレーザー切断機を使って、等高線地図みたいなもの、凸凹マップ、模型みたいなものを作ったりしましたので、その同じ技術であればすごい縮尺の小さな模型ですけど、もっと 2000 分の 1 くらい、2000 分の 1 で 50 cm × 50 cm の模型なんですね。そうすると 1 km × 1 km ですね。それは大体これが南原小学校の小学校区ですが、小学校区が入るような大きさでどういう凸凹をしているのかを見ることが出来る。そうするとそこに学校からいただいた皆さんの通学路がどうなっているのとか、通学路が入っているところは時間を戻してみるともともとどんな感じだったのかなとか、そういうことも子どもたちと一緒に考えることが出来る。子どもは授業の一環で見せる。ここからがメインですが、うちの学生が夏休みに小学校の周りを測らせていただき、こういうものを最初 2017 年は学校の周り、次の年は公園の辺りを測り、去年は頑張ってここに下作延団地があり、ここが平瀬川ですが、三年間かけて学校から川までを全部測りました。ここにあるものが建物とか緑とか、川を含めて丸ごとそのままデータになっています。事後的に学校流域プロジェクトでやっているピオトープはどんな風になっているかな、校舎はどうか、近くにある公園はどんな感じで凸凹しているの、どう

いう木があるよねとか、後は市営住宅の中はどんなのというようなことを見て、これはムービーですけどもこうすると毎朝子どもたちが坂を上って通学してくるわけですけども、それがどんな様子なのかを実際に測ったデータで共有出来たり、そうするとここがY字路になっているから人も集まってくるけど水も集まってくるよねとか。盛り土しているから小学生から見たら絶壁みたいな擁壁があったりするわけですけど、そこを上ってきて小学校に行くよね。そういうことを皆さんと、自分たちの周りの環境を自分たちのものとしてこういう道具をして？見てみるということをしました。そうするとそういうものが三次元の形で見えてくるので、凸凹の中で皆も暮らしているよね。そうするとこれは単純なことですけど、雨が降った時に雨は逆流しませんから、重力に沿って必ず高いところから低いところに流れて行くので、大地が凸凹していればその通り。これはかねてから岸先生がおっしゃっている流域思考の考え方ですけども、そういうものを子どもたちと共有しながら考える。これはすごく大事なことですけど、時にはこういうものが災害につながることもありますので、そういうアイデアで、悲しいですけども被害を受けたようなところというのはやっぱりそういう風な形のところだよねとか。とくに昨年12月に出張授業をしましたがその前に台風19号の被害があったから、普段はこういう風な川が実際には一杯いっぱいまで来てしまって、広瀬川の流末のところでは被害も出ている。そういうことも子どもたちと一緒に確認をしたりしました。

そうすると、ここに関しては普段はこんな風ですけども、台風によって氾濫したこともかつてはあったわけですので、そういうことも考えてこの小学校は少し工夫がされている。これは測ったものから作った断面図です。こういうのを見るとちょっと気が付かないですが、校庭にちょっとした段差がある。大雨が降ると校庭で一回水を受けていきなりじゃあっと流れないで、そこで流下するのを抑えてあげる。それによってここが少し頑張ることによって、その周りに水が一気に集まることを避けられる。うちの学生が悪乗りをして、じゃあ水没した状態を再現してみようかということで、そういうようなムービー、水を張ったムービーを作って、こんな風に歩いているところが大きな湖になるよね。これだと高だか30cmくらいですが、プール6杯分くらいの水が溜まるのが分かって、そういう風な機能で、ここが水びたしになると校庭使えないよねということだけけど、その分プール6杯分の水を皆さんが一時的に引き受けているんだよということと一緒に学びました。

そういう風なことをやってきて、3年間測れたので好きなところを取り出せます。例えば、この中でも色々な可能性があって、先ほどもプール6杯分の話がありましたけれど、その他にも例えばビオトープがあったり公園があったり。こういうところは舗装がされていませんから、こういうところも水循環ですが、これ別べつなんですよ。学校があって公園があって団地があって。だけど水循環のことで考えたら、本当は一緒に考えないといけない。そこまで難しいことは子どもたちには言いませんけれど、この場で考えるならそういうことも考えて行くべきだし、僕らは建物の側も、屋上の雨というのは雨どいで雨水管に繋いで流せば終わりとして習っているんですけど、それだっていきなり流さずにもうワンクッション置いたらもうちょっと違う水循環が出来るんだとかということが考えられるわけです。ここでポイントなのが、これは平瀬川の川のところを測ったところですけども、残念ながら目いっぱいまでやっているから水が溜まる場所まではあるわけですけど、これ以上容量を増やせないですね、どう考えても。倍の幅には出来ないじゃないですか。そうするとこの中でやりくりすることを考えないといけない。一杯いっぱいまで来るとあふれちゃうので、さっきのプールの何杯分かもしれないですけどそれを仮に一時的にやると、それで頑張るので少し下がるんですね。その分はメリットがある、そういうような話を子どもたちと一緒にしてきたんです。

最後に、これが去年非常に好評だったんですけど、ガリバー断面図と勝手に言っていますが、巨大な断面図を川から小学校まで作って、2.5mくらいある断面図ですけど、それを小学校に貼って子ど

もたちに見てもらいながら話をしました。ちょうど子どもたちの目の高さになるくらいに貼ったので、背の高さはちょっと違いますよね。そうすると自分の背の高さに合うところで、坂を上って行くので、地面が自分の目のところから、見えたとこから行って、みたいなことが出来るように見てもらったり、さっきの模型にちゃんと触りながら大地の凸凹の形も見てもらいながら学んだりとか、うちの学生が説明をしながら今見ていただいたようなムービーを子どもたちと一緒に見ました。これがどういう効果があったのかはまだ分からないですけど、アンケートを授業の後に取らせていただいた。アンケートというのは回答率が悪いんですけど、出張授業をやった後に担任の先生が取ってくれたので、100%の回答ですね。どんな風に異常気象の豪雨等の時にするかというのを聞いていますけれど、その後にこの授業で意識が変わったかということ聞いています。やはり「強く意識する」、「やや意識する」というのが皆さん意識付けが出来た。自分事として防災の意識付けが出来たことも非常に大事だと思います。それに今回のことで、凸凹に対する意識とか雨の降った時の水の流れ、これは難しいことではないので、そういうのを自分たちの周りの環境の中で自分事として考えて行くことが出来たんじゃないかと思います。

この凸凹マップを今改定しているということですが、これは仕方が無い。区の事業で作るので区の全範囲を作らなくては行けません、本当はこんなにくまなく皆さん生活をしているわけではないので、自分たちの生活圏、子どもたちの学校区の1km四方とか、そのくらいの形に対する意識というのがもっと身について、そういう中で何かある時にはどこが危ないのかな、どこのことを考えなきゃいけないのかなと、別べつにある緑とか建物とか空き地とか水が通っていくところと一緒に考えると良いのではないかと思います。この会に関しては、自分事として色々なことに関わっている方が集まっているので、それをもう少し測地的に地域ベースで集める工夫が今後出来ると良いのではないかと。特に企業の方も集まっていますけど、私も大学に所属していますけど、大学とか大企業って大きい地べたを持っているんですよ。公共も道路や公園とか色いろ、宮本町の方に行くと諸所分かれていますけど公共空間を持っている。そういうところと言うのは、大きい地べたを持っているということは大きい雨を引き受けるということですよ。たくさんの雨を引き受ける。単位面積当たりの降る量は決まっていますから。そうすると地べたの大きさによって引き受ける雨の量は変わってくるので、それぞれ皆さん考えて、自分のところだけではないものを協調的に賢く引き受ける方法をこれから考えて行けるといいなと思いました。

⇒ 学校から通学圏内まで広げて地べたのことを勉強するのは面白いです。子どもたちと学校と地域を巻き込む。僕の考える地域、小流域という自然の地形とかぶせてやると、もう今後の温暖化適応策の世界学習モデルになるんじゃないでしょうか。(岸)

□「流域治水の考え方について 他」(慶応大学名誉教授 岸 由二)

高津のこのプロジェクトは、気候変動の緩和策と適応策と生物多様性を三本柱にしています。気候変動に対する緩和策はどこでやっても同じです。サハラ砂漠の真ん中で炭酸ガスを減らそうと、東京の都心で減らそうと、大気圏は循環しちゃうから同じなんですけど、降った雨に対する対応というのは、雨が降らないところはダムを造らなくてはいけなし、豪雨が来るところは水を溜めるダムを造るとか治水をしなくてはいけなし、同じ温暖化ってしゃべっているけれど対応はまったく違います。これがなかなか良く理解されない。適応策はその場所でやらなければ意味がありません。被害を受ける場所です。緩和策はどこでやっても同じです。もちろん適応策の中にも色いろな分野があるから、地域、場所の束縛性の緩いものもあります。流域思考で進めるのは、温暖化適応策と生物多様性。それをエコシティたかつは色いろなプロジェクトにして進めています。

エコシティたかつの言い方だと、温暖化緩和策は低炭素・省資源社会の実現。そういう形で進めてい

ます。これは地域性が原理的にはありません。どこでやっても良い。温暖化適応策はこの畑が困る、このまちが水没する、この谷が水が無くなるという、場所がいつも出てきますから、地べたの凸凹が関係します。自然共生型都市の再生、生物多様性に配慮した地域づくり、実は生き物は水のコントロールを受けますから、水循環の枠で縛られますので、行政区画でやるよりも流域でやった方がはるかに良いんです。だから、エコシティたかつを実現するために、温暖化適応策と生物多様性関連のプロジェクトは流域でやりましょう、流域思考でやりましょうとこの計画のスタートから位置づけ、国が追い付いてきたということです。

では流域とは何かということですが、これはエコシティたかつのホームページに一杯載っています。世界的教科書のように書いてある。ほとんど活用されていないませんが、流域が重要だというのが分かったのは時代が変わったからです。ぜひホームページを見てください。色いろな説明があつて、どれもこれも一級の説明が付いています。ここではさらっと理解してもらいます。流域というのは雨の水が集まってくる、地べたの広がりのことを流域と言います。雨の水が集まってくるというのは、分水界で囲まれた窪地ということです。集まって池になるのか、湖になるのか、川になって海に行くのか、それは色いろです。じゃあどういう流域かという時には、基本は集まってくる場所で定義するのが普通です。色いろな定義の仕方がありますが。例えばこの絵だったら、A 川というのがあり、隣に B 川というのがあり、A 川の河口に水の集まる範囲が A 川流域、B 川河口に水のあつまる範囲が B 川流域です。河口が違えば流域は別です。この辺りで言えば、鶴見川流域と多摩川流域は河口が違うので、羽田と生麦と違うから別の流域です。高津区はその別の流域を仕切る分水界が区の真ん中を突っ切っているから、高津区の丘陵地のかかなりは降った雨は横浜市鶴見区の生麦に行き、低地帯に降った雨は川崎市羽田の河口に行きます。まずはこれをちょっと覚えてください。流域ということ。流域は水を集めますから、例えばこの絵だと青い線のように流域を構成する高台から降った雨は低地に降りてきます。日本列島は基本が決まっています、日本列島全体では山地丘陵が 7 割、沖積低地、6500 年前に縄文海進で陸になったところ、それが 3 割強です。大体どの川でも大きい川は比率が同じ。多摩川はちょっと山が大きいかも知れないけど、鶴見川は 3 割が沖積低地、7 割が丘陵地です。丘陵地に降った雨がものすごい勢いで川に入ってくる。川に入ってきて海に行くが、海に行く時に素直に行ってくれないからピンクのように溜まります。流域というのは降った雨を注水して、流水にして流れて、氾濫して溜まって、最終的に湖や海に行く習性、水循環の習性を持っており、これをすべての流域がやることで、注水、流水、氾濫、排水、その四つを覚えておけば水理学の基本は OK なんです。このピンクのところに人が住んでなければ何も問題は無い。ここに人が住んだり、田畑があつたりすると氾濫が水害になります。氾濫と水害は概念が全然違います。氾濫は自然の現象です。氾濫をしない自然を作ろうなんて考え無い方が良いでしょう。氾濫する流域の氾濫域にまちを作ろうか作るまいか、作るならどういう形で治水をして作ろうか。治水というのは、氾濫はするんだけど氾濫が人の害にならないようにするのが治水ですね。普通どういうことをやるかと言ったら、丘陵地から出てくる水を溜める。保水と言います。森で溜める、畑で溜める、田んぼで溜めます。それで足りなければ雨水調整池を作って、穴を一杯作って溜めこむ。さっき田中さんがおっしゃった、学校校庭を調整池にするのは良い考えです。隣の鶴見川流域は、流域全体に既に 5000 箇所ほどの保水調整池があつて、400 万トン近くを溜める。私は町田に住んでいますが、私の住んでいる団地に 3ha、4ha のデカイ池が四つあります。それは横浜を守るためです。団地を造るときに大きな調整池を作っている。鶴見川流域の場合は、特定都市河川浸水被害対策法という特別法で縛られているから作らないと開発が出来ません。多摩川の場合は法律がかかって無いからやらなくても出来るんだけど、ただ各自治体が条例規制しているから、川崎市、横浜市、鶴見川、多摩川区別無く多分 500 m³以上の開発の

場合はこれだけ水を溜めろと指示をしていると思います。そういう形でやれば保水されるから川に出てくる水が減る。減ればピンクの領域が小さくなる。小さくなってなおかつ川の下流を直線にして土手を高くして深く浚渫すれば一気に出ちゃうでしょ。だから同じ雨が降っても流域の丘陵地で保水力が高まり、排水力が高まれば、氾濫域は小さくなる。これが治水です。それでも間に合わない時は、氾濫する場所を決めて、鶴見川の場合は多目的遊水地って 84ha の巨大な土地を買って、あれは川なんですよ。川を二つに分けて、普段水を流さない川といつも水が流れる川と分けて、普段水が流れない川に大水の時だけ水が入るようにする。それを遊水地と言います。調整池とは別概念です。お金持ちの地域はそういう遊水地を設置する。今溢れさせると良く言いますが、あれはインチキなのであまり信用しない方が良いでしょう。ただ溢れさせちゃえという思想で、中国の思想です。あんなことを日本では言てはいけないんだけど、中国の治水思想は昔から伝統的だが人がたくさん住んでいて工業上重要なところは氾濫させない。人が大して住んでいないし生産力も高くないところの土手を切っちゃう。多分ちょっとイデオロギーに偏った方がたが言っていると思います。国交省の流域治水の中には、どこにも溢れさせる治水とは書いて無い。

これは 2015 年の鬼怒川の大水害です。どうしてここが、常総市で水没したか。鬼怒川の流域ってとんでもない、長さが 140 km って多摩川よりもデカイですよ。源流域は中禅寺湖の日光です。ここで三日間 600 mm くらいのすさまじい雨が降って、常総市は大した雨が降っていなかった。上流で、流域で降った雨がゴロゴロと転がってきてドカンと氾濫したんです。流域思考ってこういう事を言います。降った場所に氾濫を起こすんじゃなくて流域で集まって来る。集まって来る対応が十分でなかった。源流ですごい雨が降ったという情報が常総市に河川部隊からどんどん届いた。常総市の市長さんたち、課長さん、係長さんがいくら言われても分からなかったんです。僕は当時国交省の委員だったから機密資料を全部見えますけど、国交省がどれだけ熱心に常総市の市長さんや課長さんたちに逃げてくれと言ったか。こんな雨が降っていないのに国交省は大げさじゃないか。何を騒いでいるんだよ。裏の小貝川だって溢れてないから。どっと来ちゃったんです。多摩川が氾濫する時は雨はここに降りません。関東山地に降るんです。去年もそうだった。ここは大した雨じゃないのに平瀬川の河口はあんなことになった。雨は全然違うところから来ます。

この図は高津区の形に色が付いている。赤い線は多摩川と鶴見川の流域を分ける分水界です。高津区市民健康の森に降った雨は生麦に行きます。鶴見川だからです。橘小学校もそうです。上は降った雨が多摩川に行きますが、19 号氾濫と書いてあるのは、平瀬川と多摩川の合流点です。ここで氾濫して一人亡くなった。その左に下に尖った三角形が書いてありますが、これは円筒分水があるところ、二ヶ領用水と平瀬川が交差するところです。10 年ほど前の 12 月の集中豪雨で、ここで二ヶ領用水が氾濫して、左岸側の工場地帯が代水没しました。ここでの二ヶ領用水コントロールと平瀬川、多摩川の関係がちょっと上手く行かなかったから氾濫して被害を受けた。多摩川の推移が上がって水没したのではありません。バックウォーターと聞かれると思いますが、あれは多摩川の推移はそこそこなんだけど平瀬川からあまりすごい雨水が来ちゃったから後ろに上っちゃったんですね。平瀬川と二ヶ領用水の相互関係で事故が起こった。じゃあ平瀬川ってどんな川かっていうと、源流は宮前区に入るんじゃないかな。星印のところが我われが今いる溝の口です。溝の口というのは、平瀬川の河口ということです。昔ここが海面が高かった時の河口です。ここが水没しちゃうと都市が出来ないから、流路を変えたわけです。津田山をぶち抜いて今の流路にしたんだけど、津田山のトンネルの容量は決まっているからあれ以上の雨が降れば、本当にすごい豪雨が来れば、二日間 600 mm、700 mm という今九州なんかで大騒ぎしている雨がここに来れば、多分確実にここまで平瀬川の水が来る。流域がそうになっていますから。皆あ

まり意識していないでしょう。

国が流域治水に転換したので話が一気に変わりました。手元に国土交通省の資料を配ったので、後で見てください。何て書いてあるかというと、「流域治水」への転換ということで、河川、下水道、砂防、海岸等の管理が主体となって行う治水対策に加え、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として治水を考え、何を言っているのか良く分からないですが。簡単に言うと、河川法と下水道法と砂防法と海岸管理の法律と、この四つの法律でしか今までは治水をやっていないんです。勝手に都市計画をやって良いんです。困ったらこの四つで。これがやれなくなって来た。鶴見川は40年前に連絡があったから総合治水という流域治水を始めている。ここに出てくる集水域、河川、氾濫域、これは特殊な用語で学術的に通用する言葉では無いですが日本の国交省が使うから、川に水を集める高台のことを集水域と呼ぶ。川のことを水系と言っている。川が溢れると大水没するところを氾濫原と言っていて、流域は集水域と水系と氾濫原で出来ている。そういう定義をする学術世界は無いと思いますが、日本の国交省がこれでやるって言うんだからこれで良いです。

色いろなことがあって、じゃあ高津区です。これに対応する高津区はどんなことをやっていくのか。これからどういうことをやったら重要な貢献が出来るか。まず学校流域プロジェクトです。学校流域プロジェクトはこういう事態になることを予想して最初から流域と書いてある。学校というのを流域治水の拠点にしよう。ただしなかなか理解が行政にも周辺にも広がらないのでビオトープ学習とか色いろやりましたが、田中さんが登場されて学校流域として3Dにする技術を手に入れましたからやりましょう。実は今年から小学4校年理科で流域の学習が始まった。10年位、僕も中心人物の一人で河川部隊の外郭の財団で文科省へロビイングを続けてようやく今年の4月から実行されましたが、今文科省は悩んでいると思う。流域という言葉を使ってはいけない。岸先生たちのロビイングで、降った雨水がどうなるかを学習課題にするな。河川部隊からのロビイングの場合流域は使えないんだって。これは地理学会が使う用語だから、河川が使う場合水循環学習だって。4年生に水循環学習とは言えないんですよ。だから雨の水は低いところに集まるとしか言いません。今、そうになっている。学校側の方が学習資料を流域ということで作り出していますから、文科省の縦割りは仰天すべきですが。こういう絵で文科省に説明したし周辺の学校にも説明をして、これからお見せするのは僕が描いた絵ですけど、一部の学校は教科書を説明する資料に使っている可能性があります。校庭に雨が降る。水が溜まる。溜まっている水の周りに流域が出来たということです。水を集めている。どんどん集めて大きくなる。全体が大きくなると学校校庭流域から流れだして池に入る。こういう学習をすべての学校で雨が降った時にやれば良い。雨が降った時にどこに水が溜まったか印を付けておくと、水たまりと水たまりを繋ぐ川が見つかる。面白いでしょ。先程ちょっと話のあった高津の学校流域プロジェクトでこれからこれを土台にして動画の教材を作る。さっきの図と重ねると分かりますよね。学校の校庭で学ぶことと利根川流域とか鬼怒川流域とか、小さかろうが大きかろうが、まったく同じことが起きる。で、高津区は実はそういう小さな流域がいっぱい集まって出来ている。まだそこまでの理解は難しいかもしれない。本当に谷になっていないと流域という考えは難しいかも知れないけど。皆さんのお手元にある緑色のたかつの凸凹マップは今回改訂していただいてさらに分かりやすくなって、そこに小流域区分があって、雨粒が付いているところは水土砂災害が起こった場所です。水土砂災害が起こった場所は流域地形、区切りが入っているから、必ずその下流で起こることになっている。水が集まるからです。実は豪雨時の水災害は氾濫だけでは無い。日本列島全体でどちらがたくさんの人を殺しているかというのは大規模氾濫ではなく、皆が崖崩れと思っている小流域水土砂災害の方が死者がはるかに多いんです。これは対応する法律が今現在はありません。崖崩れの法律では対応出来ないことが分かっている。打つ手が無いのでまだ本当に収集が付かな

いんです。鶴見川でモデルの研究を始めることになっていましたが、担当のキャリアの国交省の職員が異動してしまったので。どう考えれば良いかと言えば、高津区の皆さんは古くからここに住んでいれば谷戸という言葉をご存知だと思います。関東地方でしか使わない言葉ですが、谷戸というのは水田耕作に対応した小流域のことを谷戸と言います。だから谷戸で治水をするというのは、これ流域治水なんです。昔は谷戸田と言って、谷戸単位で水を集めて田んぼをやったんですね。谷戸を単位に水循環の調査研究をしてモデルを作れば、小流域水土砂災害のに対応出来る学習が出来る、方針が出せる。それがあるので、緑ヶ丘霊園の谷戸を一つ水と緑の探検隊にさせていただいて、NPOの職員と子どもたちと折おり市民の皆さんで環境整備をする。何をやっているかと言うと荒れた小流域を保水力の高い生物多様性豊かな小流域にするのをやっている最中です。そういうのが上手く行かないと、先ほど田中さんが見せたけどこういうことが起こる。これは2014年広島の高木というところでたかだか30ha規模の小流域に時間90mmが3時間くらい降ったと思うんですけど、それでこの谷が集水した水で壮大な水土砂が出て下側多分50mか100mくらい、コンクリートの構築物をその谷から出てきた土砂が壊して、ここで多分40人くらい亡くなったはずなんです。これが今全国で多発しているんです。雨が降っていないだけで、高津区にもそういう雨が来ればこういう風に崩壊する場所が多分何か所もある。これは線状降水帯というやつですね。どうしてそうなるのかと言うと、森の管理がめっちゃくちゃですから、もう雑木林を炭や薪で使うというのは1960年代で終わっていますから、もう60年間何もやっていない。今高津でも話題になっていると思いますけど、ナラ枯れと言うのでコナラに木食い虫が入って猛烈な勢いで神奈川県全域枯れています。僕がやっている鶴見川の源流域とか小網代はすさまじい勢いで枯れている。クヌギに感染している。常緑のシラカシとかマテバシイにもどんどん感染していく。これは止まらないと思います。なぜかと言うと、枯れているコナラは本来そんなにデカくないはずなんです。放置されないはずのものが、60年、70年放置されちゃったからもう寿命が来ていて、そこに虫が入っている。そこから感染が広がっている。そういうコナラに樹医さんに頼んで薬を打って、お金がいくらあっても足りない。これは全部枯らしちゃうしかない。枯れた樹から大量の木食い虫が出ますからもうどうしようもない。薬を撒ききれないでしょう。多摩丘陵はまだこれからですけど、すごい状況です。どうするかって嫌だったら、クヌギだコナラだってやめて、全部伐採してしまう。別の樹に変えれば良い。里山だなんてしがみつかないでやれば良い。でもちゃんとやりたいならクヌギ、コナラで樹林管理をするしかない。どうするんですか。15年から20年で伐採して更新する。そういうことをやめちゃったから樹は枯れる、台風で枯れる。そこに豪雨が来る。樹が倒れて小さなダムが出来て決壊して水と石と混ざった、泥と混ざったものがカスケードで落ちてきて、人を殺しちゃうんですね。だからこれ管理不測の森を管理しましょうって、それでしょうがなければダムを造るしかありません。さっきの高木は国交省が出動して巨大なダムのような、砂防ダムを造りました。それで止まるのかどうか分かりません。事後的に。高津にもそうしなきゃいけない場所が何か所もあります。かつて水害を起こした場所は、実はそういう谷の崩壊で起こっている。過去10年の崖崩れ発生状態と言うんで、これは3年程前の川崎市の集計です。ここにあるのは崖崩れですが、実は崖崩れと今のような小流域水土砂災害というのが区別されていない。これが最大の問題なんです。崖崩れは法律がある。ところがそれで処理出来るのか分からない形の災害が続いていて、もっと言うと崖崩れは大した災害は起こしません。崖は崩れていないから崖なんで、超越的なことを言ってしまうえばそうなんです。

高津区の崖崩れ危険地帯に色が塗ってありますが、この色が塗ってあるところではなく、色が塗ってある周辺で谷戸になっていて急傾斜で森林管理をしていないところで事故が起こる。まだ地図が無いから作らないとダメです。モデルをどこでどう研究したら良いのかということで、水と緑の探検隊で緑ヶ丘霊園で谷戸を選んだ。赤い星があるところの谷戸を選んだ。ちょうど良い形で大きさも良いし、ここだったら

自然の再生も市民教育で出来るし、規模もちょうど良いから超豪雨が来ると激しく水土砂が溜まることが分かっているので実験地になるとのが、僕のここを選んだ理由です。そろそろ出来ると思う。こんな地形ですね。ここスタートしたのが 8 年位前でしたっけね。この画像は最初に入った時ですけど、もう数十年放置したからスギが倒れているんですよ。真っ暗で。土砂崩れをした跡が 3 か所あった。この谷の中の小さな谷がさらに崩れて土砂がお饅頭みたいになっている。これをきれいにしましょうと言うのでどんどん伐採して今はこんなになっている。光が入るからシダが戻ってきてきれいになっている。こういう作業を NPO が基礎作業を引き受けて後は市民と子どもたちで一生懸命にやっています。ここに実はエビネがあった。畑だから大したものはないと思ったらエビネが見つかって、絶滅危惧ランクでは準絶滅危惧(NT)だが、神奈川県では絶滅危惧Ⅱ類ってすごく重要な植物で、見つかったら泥棒されるんで保護しようというので、NPO の事務所と富士通ゼネラルさんの会社で育てていただいて、今年で 3 年目でしたっけ、見事に育って、株分けすると 50 株から 60 株になります。株分けして 50 から 60 株というのはちょっと怖くて、毎年倍に出来ますから 3 倍にも出来ちゃうんで、今 50 あるということは 3 年で 10 倍になるから 500 でしょう。10 年で 1000 倍になるから 5 万株になっちゃうんです。もう会社でも後数年しか持ちこたえられない。戻すんですが、戻すときにただ戻したら泥棒されることが分かっていますからちゃんとしたフェンスで保護地区を作らなきゃいけない。川崎市のエビネの絶滅危惧種保護ゾーンをこの谷に作るしかないんですけど、ちゃんと鍵のかかった鉄柵のあるものを作ると 50 円じゃ出来ない。1 万円じゃ出来ないでしょ。100 万円、200 万円、300 万円かかる。どうしますかと言うのが、今の NPO と富士通ゼネラルさんの課題なんです。富士通ゼネラルさんの環境レポートに載っている広告です。これをやりましょうよ、企業と一緒に。今やっているのをさらに富士通ゼネラルさん以外の企業さんにも応援してもらって、一般市民にも応援してもらって、どういう位置づけにするかは行政で決めていただくしかないんだけど。あの一つの谷の極所水土砂災害を防止するための実験地であると同時に生物多様性の保全回復の拠点に出来る。大してお金はいらない。クラウドファンディングを上手く使えば 2、300 万円はすぐ集まるから、高津区がその気になれば、今年 2、300 万円集まって今年戻せちゃう。来年は 100 株くらいエビネの咲く花園が出来るかと思います。

こういう形でエコシティたかつの個々のプロジェクトを広げて欲しい。次つぎに新しいメニューを考えてちょっと終わり、ちょっと終わりだと世界に抜かれて行きます。エコシティたかつは日本中が、世界中が自治体の適応策と言い出すより 10 年程前に始めました。あまりに早いからイギリスが適応策を検討する国家組織を使って世界中を調べたら、日本国に一か所だけ自治体なのに適応策をやるという自治体がある。川崎市高津区だって言うんでイギリス大使館から来ました。何をやっているんだ、どうしてここだけ適応策をやっているんだというんで大使館に呼び出された。英語で全部やるから僕も付き添って行ったんです。担当の係長さんが行って半日説明をしました。なんだ、これは岸先生の起草ですか、まだ実践にはなって無いんですね。でもこんなことを話題にするのがすごいということで、多分エコシティたかつの予算が、区がやっているから生意気だなというのではなく宮本町に切られなかった最大の理由はイギリス大使館から声がかかったことでしょう。10 年前に先頭にいたのが 10 年経つと一番ビリになるというのはよくあることなんです。日本国が流域治水と言い出しちゃった以上は賢いところは瞬間にして今言っているようなことをやるから、エコシティたかつの先行者として、ここにこういう皆さんがいて、連携があって、既に拠点があって、学校があるということなんで、ぜひ活躍していただきたい。

5 その他

(1) かわさきカーボンゼロチャレンジ 2050 の取組について

五十嵐委員（川崎市環境局地球環境推進室）が配布資料を用いて、川崎市が現在取り組んでい

る「かわさきカーボンゼロチャレンジ 2050」の概要を紹介し、協力をお願いした。意見・質問等は特に無し。

6 閉会

以上

令和２年度第２回「エコシティたかつ」推進会議 次第

１ 議事（別紙様式「意見書」による質疑応答を実施。）

- （１）令和３年度「エコシティたかつ」推進事業における取組結果について
 - ア 「たかつの自然の賑わいづくり」事業
 - イ 普及啓発の取組について
 - ウ 環境まちづくり普及啓発事業
 - エ 委員からの情報提供
- （２）令和３年度取組について
- （３）情報交換

２ その他

- ・市脱炭素戦略「カーボンゼロチャレンジ２０５０」に基づく「脱炭素アクションみぞのくち」の取組について

＜送付資料＞

- ・「学校流域プロジェクト」の進捗状況について【資料１】
- ・令和２年度「たかつの自然の賑わいづくり」事業の取組結果について【資料２】
- ・令和２年度 普及啓発の取組について【資料３】
- ・令和２年度環境まちづくり普及啓発事業の取組結果について
～小学校敷地丸ごと３Ｄ化プロジェクト～【資料４】
- ・高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）の改訂について【資料５】
- ・株式会社富士通ゼネラル提供資料 【資料６】
- ・マルイファミリー溝口提供資料 【資料７】
- ・令和２年度「エコシティたかつ」推進事業実施状況【資料８】
- ・令和３年度「エコシティたかつ」推進事業スケジュール（案）【資料９】

-
- ・「脱炭素アクションみぞのくち」パンフレット（スタートアップ版）【参考資料】

令和2年度「エコシティたかつ」推進会議 委員名簿

区 分		氏 名	所 属	職 名
有識者	1	岸 由二	慶應義塾大学	名誉教授
	2	田中 友章	明治大学理工学部	教授
団体	3	竹井 斎	川崎市地球温暖化防止活動推進センター	センター長
	4	徳武 道雄	高津区市民健康の森を育てる会	相談役
	5	加藤 伸子	高津区まちづくり協議会	
	6	仲村 美津子	たちばな農のあるまちづくり推進会議	委員長
区内企業・その他	7	平澤 克己	NECプラットフォームズ株式会社（区内企業）	環境工務部 環境企画・首都圏グループ マネージャー
	8	加藤 祐美子	株式会社川崎フロンターレ（区内企業）	集客プロモーショングループ
	9	今川 広明	株式会社富士通ゼネラル（区内企業）	CSR推進部 シニアマネージャー
	10	竹内 篤	マルイファミリー溝口	施設管理部長
	11	吉岡 高史	学校法人 洗足学園音楽大学	法人本部財務責任者
市民	12	遠藤 慶子	市民委員	
校長会	13	山内 浩正	川崎市立小学校長会高津支部	久本小学校長
行政	14	石井 芳宏	川崎市教育委員会 総合教育センター カリキュラムセンター	指導主事
	15	川田 剛	川崎市高津区役所	副区長
	16	岩上 淳	川崎市環境局総務部環境調整課	課長
	17	五十嵐 美保子	川崎市環境局地球環境推進室(協働推進・国際環境施策)	担当課長
	18	小沼 匡弘	川崎市建設緑政局総務部企画課	課長
	19	押田 春美	川崎市高津区役所保健福祉センター(学校・地域連携担当)	担当課長
	20	小森 章一	川崎市高津区役所道路公園センター(協働推進担当)	担当課長

氏 名	所 属	職 名
【事 務 局】		
勝野 隆	高津区役所まちづくり推進部企画課	課 長
佐藤 智之	高津区役所まちづくり推進部企画課	担当係長
大橋 貴司	高津区役所まちづくり推進部企画課	主 任
桐ヶ谷 政幸	高津区役所まちづくり推進部企画課	主 任
堤 奈穂	高津区役所まちづくり推進部企画課	職 員

「学校流域プロジェクト」の進捗状況について

1 学校流域プロジェクトについて

学校にビオトープや雨水利用施設を整備し、生きものや水循環について子どもたちが学ぶ場を作るプロジェクト

2 ビオトープを活用した環境学習支援の実施状況について

学校名	実施日	学年等
子母口小学校	11月10日	5年生・5クラス（177名）
新作小学校	12月1日	飼育委員会
東高津小学校	7月30日	6年生5クラス（181名）
坂戸小学校	10月15日	5年生3クラス（92名）
久本小学校	7月27日	6年生4クラス（144名）
梶ヶ谷小学校	6月30日	3年生4クラス（146名）
西梶ヶ谷小学校	8月21日	3年生3クラス（87名）
上作延小学校	10月22日	5年生3クラス（111名）
橘小学校	新型コロナウイルス感染症の影響で中止	
末長小学校		
下作延小学校		
高津小学校		
久末小学校		
南原小学校		
久地小学校		
中央支援学校		

3 その他

環境学習支援を目的とした動画コンテンツの制作を行いました。

○ コンテンツの内容

学校流域プロジェクトのプログラムの一つ「流れる水のはたらき」に関連し、学校の校庭に降った雨水がどのように流れるかを解説

○ 活用方法

区内小学校等における環境学習のための教材として、動画コンテンツを提供するとともに、他区の小学校等においても環境学習に活用してもらえるよう、ホームページ（YouTube「川崎市たかつ区チャンネル」）で公表予定。

令和2年度「たかつの自然の賑わいづくり」事業の取組結果について

「たかつ自然の賑わいづくり」事業のうち、「たかつ生きもの探検隊」を9月13日（日）に、「たかつ水と緑の探検隊」を11月4日（水）に実施しました。

1 たかつ生きもの探検隊の開催概要

- (1) 日 時 令和2年9月13日（日） 10時00分～11時45分
- (2) 会 場 高津区せせらぎと親子広場 ※ 高津せせらぎプレーパークと同時開催
- (3) 参加者 小学生と保護者15組で30人（小学生15人、保護者15人）
- (4) 内 容
 - 多摩川の概要説明
 - 生きものの採集と解説
- (5) 見つかった生き物
下記「表 見つかった生きもの一覧」参照
- (6) 主な感想
 - ・楽しかったです。また同じイベントがあれば、参加したいそうです。
 - ・近くでも虫をつかまえたり、虫を見たりしていなかったなので、身近な自然を知ることが出来て良かったです。
 - ・たくさんの生き物が住んでいることが分かり、勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・ありがとうございます。たくさんとれました。水辺の生きものがもっと見たかったです。
 - ・虫を知らないのをもっと知れた。たのしかった。

表 見つかった生きもの一覧

分 類	名 称
	採取した生き物
コオロギ	ハラオカメコオロギ・エンマコオロギ
バッタ	トノサマバッタ・ショウリョウバッタ・ツユムシ・コバネイナゴ
チョウ	ヤマトシジミ・ベニシジミ・モンシロチョウ・モンキチョウ・キタキチョウ・イチモンジセセリ・キタテハ・シャクガの仲間（2種類）・ヤガの仲間（成虫・幼虫）
トンボ	アオモンイトトンボ・シオカラトンボ・ショウジョウトンボ
その他	アオクサカメムシ・キマダラカメムシ・トラマルハナバチ・ウスイロササキリ・コバネヒメギス・カンタン

2 たかつ水と緑の探検隊の開催概要

- (1) 日 時 令和2年11月4日(水) 9時30分～11時30分
- (2) 会 場 川崎市立緑ヶ丘霊園内谷戸
- (3) 参加者 下作延小学校生徒64名(2クラス)、下作延小学校教師2名
- (4) 内 容
 - 作業内容説明



- 森づくり体験(木の間伐、池の穴掘り)



(5) 主な感想

- ・ 木を伐る作業など初めてやる体験が出来ました。今までは穴を掘る作業は遊びでしかやったことが無いけど、責任をもって仕事として書くことは無かったので、貴重な体験になりました。ありがとうございました。
- ・ 森などの色々な取り組みを知ることが出来た。高津のために自然を作ったりしてくれているのがうれしかった
- ・ 木を伐るのはとても難しかったけど、新しいことを色々と知れたので良かったです。説明が分かりやすかったので良く分かりました。
- ・ エコシティたかが色々な活動をしていて、こんなにも森林のために頑張っていてすごいと思います。50年後、100年後にはきれいで日光の入り込む森が増えていると良いなと思います。

令和2年度 普及啓発の取組について

1 エコシティツアー

日 時：令和2年10月28日（水）14：00～16：00

場 所：ノクティプラザ、マルイファミリー溝口（高津区溝口1丁目3番1号）

参加者：18人（委員10人、関係者2人、事務局5人、業務支援1人）

内 容：概要説明、質疑

【ノクティの環境活動（再生可能エネルギーの活用、エコファクトリーでのゴミの分別とリサイクル、屋上緑化・ビオトープ他）】

【マルイファミリー溝口の環境活動（エコロジカル・インクルージョン、フードホール「HARA 8」での国産木材利用、「Q-SUI」他、】

施設見学

【エコファクトリー、フードホール・フードコート（国産木材利用活動）、ビオトープ、屋上広場】



2 「エコシティたかつ」推進フォーラム

形 態：イベント「第8回 かわさき環境フォーラム&環境エネルギー・ラボ2020 in たかつ（主催：川崎市地球温暖化防止活動推進センター）」に出展

Web 展示：川崎市地球温暖化防止活動推進センターHP での紹介

内 容：エコシティたかつの活動、家電リサイクル（株式会社富士通ゼネラル）紹介

当日展示：令和2年12月13日（日）10：30～15：30（場所：高津市民館）

内 容：適応策の周知…エコシティたかつ～大地の凸凹から考える～

- ・小学校敷地丸ごと3D化プロジェクトから3D動画の上映、3D断面図、3D模型の展示

- ・凸凹マップ、各種資料及びエコシティたかつエコバッグの配布



令和2年度環境まちづくり普及啓発事業の取組結果について ～小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト～

1. 目的

小学校敷地を小流域と見立てて、当該エリア内の水循環を考える「学校流域プロジェクト」の次段階の取組として、流域での自然の地形（大地のデコボコ）を前提とした水の流れを意識し、適応策（賢い雨水の引き受け方）を考えるための機会を提供する。

2. 取組内容

「エコシティたかつ」推進会議委員である明治大学理工学部建築学科 田中研究室と協働で、川崎市立南原小学校周辺敷地を対象として、令和元年度に3次元スキャナーでデータ計測を行った際の成果物を用い、同小学校において出張授業を行った。

<南原小学校での出張授業>

日 時：令和2年12月15日（火）午前中の授業

場 所：南原小学校視聴覚室

参 加 者：5年生の児童（約50人）、担任教諭（数人）など

5年生は2クラスあり、それぞれ2時限を使って実施

テ ー マ：大地のデコボコから、みんなのまちの防災を考えてみよう！

概 要：小学校敷地周辺の1/2000の地形模型や過去から現在までの異なる時代の航空写真、「小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト」の成果物である3D点群データによる画像・映像などを用いて、子どもたちにも分かりやすい形で題材を提供し、自分たちが住むまちや通っている小学校がどんな場所なのかを子たちが気づき・考える機会を与えた。

大地のデコボコ（小流域の地形）の特徴に合った賢い雨水の引き受け方を一緒に考えることで、まちの防災について考える総合学習の授業を行った。

- ・みんなのまちの姿を見つめ直して考えてみよう
- ・みんなの小学校をまるごと3D化してみました！
- ・近年の夏～秋の天候を振り返ってみよう！（猛暑や豪雨・台風）
- ・大地のデコボコから、みんなのまちの防災を考えてみよう



田中教授による講義



田中研究室の学生による講義



地形模型に触れて大地のデコボコを体感



南原小学校の3Dムービーに興味津々！



最後は教室でドローンを飛ばして記念撮影

高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）の改訂について

1 目的

現在のものは、平成28（2016）年3月に発行しており、発行から5年が経過するため、浸水被害箇所などの時点更新をした。

また、現在のものの地図は、他者が著作権を有するものについて、許可を得て使用しているため、新たに地図を作成し、川崎市が著作権を有して二次利用できるようにした。

2 改訂内容

(1) 浸水被害箇所の追加

総務企画局危機管理室などが作成した浸水実績図や、令和元年台風第19号による排水樋管周辺地域及び河川関係の浸水に関する検証委員会資料を基に追加した。

(2) 凸凹マップの見方欄を追加

小流域の下流側が狭くなっていると、浸水が起こる危険性が高くなることをイラストで説明した。

(3) 南原小学校区域版の作成

小学校敷地丸ごと3D化プロジェクトの成果物と連携し、南原小学校での出張授業やエコシティたかつ推進フォーラムなどで活用できるように、南原小学校区域を切り出して拡大した地図を作成した。

3 印刷

(1) たかつ凸凹マップ

A2サイズ、4色刷りで5,000部印刷した

(2) 南原小学校区域版

PDF ファイルデータのみ作成した。必要に応じて印刷する。

エコシティたかつ推進会議用資料（株富士通ゼネラル）

1. エビネラン株分け

当社にて 2017 年 11 月から保全・繁殖活動を行っている希少植物エビネラン（神奈川県絶滅危惧Ⅱ類指定）につきまして、2020 年 11 月 6 日に NPO 法人鶴見川流域ネットワーク様のご指導の下、高津区役所様と株分け作業を行いました。

株分け作業の際に鉢から出し土を払うと、エビの形をした根を見る事が出来、当日は 5 鉢から 10 鉢へ株分けを行いました。

当社社員により毎日気温と鉢の湿り具合のチェックを行い、土が乾いた頃合いで水やりを行っています。

2021 年 2 月 17 日現在 10 鉢とも順調に成長しており、春の開花を楽しみに待ち望んでいます。



2. 末長小学校イベント

2020 年度、当社隣にある川崎市立末長小学校の皆さんへ下記の次世代教育を実施しました。

1 年生：図画工作「あきをさがそう」で当社敷地内の落ち葉を拾い図画工作に使用してもらいました。

2 年生：社会科見学「まちたんけん」、当社屋上からの景色、ショールーム、当社の歴史を学べる「自発館」等の見学を行いました。

4 年生：環境教育として会社での水、ゴミ、家電リサイクル法、省エネについて学んでももらいました。リサイクル工場のある浜松事業所とテレビ電話を繋ぎ質疑応答や、社内での発砲スチロール減容機の見学を行いました。

5 年生：社会科見学「日本の工業」、エアコンの作られ方を学び、工場のあるタイとテレビ電話を繋ぎタイ人スタッフとの会話、試験設備等の見学を行いました。

6 年生：キャリア教育「自分を見つめて 未来を見つめて」、宣伝部と技術部の社員による、テレビコマーシャルの作り方、業界初の機能の開発秘話の講演を行いました。



昨年 12 月 24 日のクリスマスに小学校の窓から当社へメッセージが届きました。

当社からも 1 月 4 日に末長小の皆さんに応援メッセージの返信を行いました。

今後も当社は地域の次世代教育を行っていきます。



以 上

マルイ溝口店の取組み

自然エネルギーで暮らす電力プラン「みんな電力 エポスプラン」

1月29日～31日 イベントスペースにて「お客様向け相談会」開催



お客様アンケートの結果、再エネに関心が高いことがわかる

(約400名の来場、アンケート回答者140名)

アンケート回答 環境問題に関心がある 99%

【内訳】

- ・エコバック持参等の身近な取組みはしているが、再エネ切替はやっていない 60%
- ・再エネ切替やEV自動車など、何らかの形で取組んでいる 30%
- ・問題意識は持っているが、具体的な取組みはできていない 10%

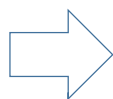


※次回2/27～/28
開催予定

みぞのくち新都市・ノクティの取組み

再生可能エネルギーの電力使用を、現状のノクティ2ビル マルイ区画のみから
今年度4月より、ノクティ1ビル・2ビルとも施設全体で電力使用をスタート！

- ・非FIT再エネ電源の電気に、再エネ指定の非FIT非化石証書を組み合わせた
100%再生可能エネルギー電気を提供する方法
- ・ノクティでは、環境に配慮する取り組みの一環として、省エネルギー対策を進めつつ
再生可能エネルギー由来の電力の使用を拡大いたします。
脱炭素社会の実現に向けて、今後も様々な取組みを推進してまいります。



令和２年度「エコシティたかつ」推進事業 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校流域プロジェクト			● 学習支援 ・区内市立小 学校及び中央 支援学校で学 習支援の実施						→			
「たかつの自然の賑わいづくり」事業						● 9/13たかつ生ぎも の探検隊 ※ 小学生向け		● 11/4水と緑の探 検隊 ※ 下作延小学校と 連携して実施予定				
普及啓発イベントの実施	● デジタルサイ ネージを活用し た普及啓発						10/28 ● エコシティ アー		12/13 ● 推進フォーラム			→
橘地区の農的資源を活かしたまちづくり の推進							● 10/4 親子で楽しむ 秋の農体験 ● 10/20 さんの市	● 11/10 ステキに映え農 フォトツアー	● 12/15 さんの市 ● 12/10～17 高津市民館で写真展 ● 12/18～24 区役所市民ホールで写 真展		● 2/16 さんの市	
「緑と水でつながる 歴史街道 花街道」の 推進	● 5/19 「区民ミニ・ガー デン」運営委員会(第1回)					● 9/4 「区民ミニ・ガー デン」運営委員会(第2回)		● 11/15 蒲口駅前キラリ デッキ植栽体験イ ベント(小学生親 子優先) ● 「区民ミニ・ガー デン」三役会	● 12/6 花街道植栽体験イ ベント ● 「区民ミニ・ガー デン」運営委員会(第3回)			● 「区民ミニ・ガー デン」運営委員会 (第4回)、三役会
小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト									● 12/15 南原小学校で出張授業			
「エコシティたかつ」推進会議						● 9/16第1回推進 会議					● 第2回推進会議 (中止)	

「エコシティたかつ」推進事業 令和3年度スケジュール R3.2月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校流域プロジェクト		●学習支援 ・区内市立小学校 及び中央支援学校 で学習支援の実施 を予定						→				
「たかつの自然の賑わいづくり」事業						●たかつ生きものの探 検隊(予定) ※小学生向け		●水と緑の探検隊 (予定)				
普及啓発イベントの実施	●デジタルサイネージ を活用した普及啓 発						●エコシティツアー (時期・内容未定)		●推進フォーラム (時期・内容未定)			↑
橘地区の農的資源を活かしたまちづくり の推進	●4/18 高津さんの市		●6/20 高津さんの市	●7月上旬 親子で楽しむ夏の 農体験	●8/15 高津さんの市		●10月上旬 親子で楽しむ秋の 農体験 ●10/17 高津さんの市	●11月上旬 ステキに映え農フォ トツアー	●12/19 高津さんの市 ●12月2週目 高津市民館で写真 展 ●12月3週目 区役所で写真展		●2/20 高津さんの市	
「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」の 推進		●「区民ミニ・ガーデ ン」運営委員会(第 1回)				●「区民ミニ・ガーデ ン」運営委員会(第2 回)		●溝口駅前キラリ デッキ植栽体験イベ ント(小学生親子優 先) ●「区民ミニ・ガーデ ン」三役会	●花街道植栽体験 イベント ●「区民ミニ・ガーデ ン」運営委員会(第3 回) ●「区民ミニ・ガーデ ン」三役会			●「区民ミニ・ガーデ ン」運営委員会(第4 回)、三役会
小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト									●小学校で出張授 業 ※実施未定			
「エコシティたかつ」推進会議				●第1回推進会議							●第2回推進会議	

令和 2 年度第 2 回エコシティたかつ推進会議

質問・意見等照会票

(回答者) ご所属 _____
 お名前 _____

資料番号等	質問・意見等の内容

- ※ 御質問等がある場合、3 / 1 2 (金) までに、この「質問・意見等照会票」を事務局（高津区役所企画課）宛てメールしてください（67kikaku@city.kawasaki.jp）。
- ※ 行が不足する場合は、別紙等により適宜御回答ください。
- ※ 各委員からの御質問等を取りまとめの上、後日、あらためて情報提供いたします。

令和 2 年度 「エコシティたかつ」 推進事業 報告書

令和 3 年 3 月

川崎市高津区役所

「エコシティたかつ」推進事業 令和3年度スケジュール

0801時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校流域プロジェクト		●学習支援 ・区内市立小学校 及び中央支援学校 で学習支援の実施 を予定						→				
「たかつの自然の賑わいづくり」事業							●たかつ生きもの探 検隊(予定) ※小学生向け	●水と緑の探検隊 (予定) (エコシティツアーと 同時開催)				
普及啓発イベントの実施	● デジタルサイネージ を活用した普及啓 発							●エコシティツアー (水と緑の探検隊と 同時開催)	●推進フォーラム (時期・内容未定)			→
橘地区の農的資源を活かしたまちづくり の推進	●4/18 高津さんの市		●6/20 高津さんの市	●7月上旬 親子で楽しむ夏の 農体験	●8/15 高津さんの市		●10月上旬 親子で楽しむ秋の 農体験⇒今年は中 止の方針 ●10/17 高津さんの市	●11上旬 ステキに映え農フォ トツアー	●12/19 高津さんの市 ●12月2週目 高津市民館で写真 展⇒ワクチン接種会 場のため中止 ●12月3週目 区役所で写真展		●2/20 高津さんの市	
「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」の 推進		●5/7 「区民ミニ・ガーデ ン」運営委員会(第 1回)				●9/10 「区民ミニ・ガーデ ン」運営委員会(第2 回)		●11/20 溝口駅前キラリデッ キ植栽体験イベント	●12/4 花街道植栽体験イ ベント ●「区民ミニ・ガーデ ン」運営委員会(第3 回)			●「区民ミニ・ガーデ ン」運営委員会(第4 回)
小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト									●小学校で出張授 業 ※実施未定			
「エコシティたかつ」推進会議					●第1回推進会議 (中止)※書面によ る情報共有						●第2回推進会議	

「学校流域プロジェクト」「たかつの自然の賑わいづくり」事業の進捗状況 について

1 学校流域プロジェクトについて

学校にビオトープや雨水利用施設を整備し、生きものや水循環について子どもたちが学ぶ場を作るプロジェクト

2 ビオトープを活用した環境学習支援の実施状況について

学校名	実施日	学年等
子母口小学校	5月25日（火）	3年生5クラス
東高津小学校	7月12日（月）	6年生5クラス（167名）
久本小学校	6月15日（火）	5年生4クラス（157名）
高津小学校	11月24日（水）予定	飼育委員会
西梶ヶ谷小学校	7月8日（木）	3年生3クラス（102名）
上作延小学校	10月6日（水）予定	3年生3クラス
中央支援学校	6月2日（木）	中学2年生（21名）
橘小学校	新型コロナウイルス感染症 の影響で中止	
末長小学校		
新作小学校		
坂戸小学校		
下作延小学校		
梶ヶ谷小学校		
久末小学校		
南原小学校		
久地小学校		

3 たかつ生きもの探検隊の開催概要（予定）

- (1) 日 時 令和3年10、11月予定
- (2) 会 場 川崎市立緑ヶ丘霊園
- (3) 内 容 高津の地形と流域の説明、生きものの採集と解説、森の観察等

4 たかつ水と緑の探検隊の開催概要（予定）

推進会議委員の見学が可能です。見学を希望される方は別途案内させていただきますので、企画課まで御連絡ください。（エコシティツアーと同時再開。詳細は資料8を参照）

- (1) 日 時 令和3年11月予定
※下作延小学校の授業内
- (2) 会 場 川崎市立緑ヶ丘霊園
- (3) 内 容 緑ヶ丘霊園の谷戸の説明、谷戸内の散策、森づくりの作業等

エコシティツアー及び「エコシティたかつ」推進フォーラムについて

1 たかつエコシティツアー

趣 旨： 推進会議の委員の方々にお互いの環境への取組について知る機会を設け、御自身の活動への動機付け等図ることを通じて多様な主体の協働・連携の推進を図るもの。

日 時：令和3年11月の平日、約2時間（予定）

場 所：川崎市立緑ヶ丘霊園（川崎市高津区下作延1241）

対 象：「エコシティたかつ」推進会議委員

内 容： 下作延小学校の授業見学、谷戸内の散策、森づくりの作業を予定しています。（水と緑の探検隊と同時開催）

2 エコシティたかつ推進フォーラム

趣 旨： 区民の気候変動適応策や生物多様性保全等に関する意識啓発を図るとともに、「エコシティたかつ」の取組に対する理解向上を図る広報事業として実施

経 緯： 平成30年度まで本事業の啓発を目的としてフォーラム形式でイベントを開催してきたが、年々集客が難しくなっている。今年度は試行的に地域の方が多く集うイベントに参加し、より広い情報発信に取組、次年度以降を見据えた検証を行いたい。

方 向 性： 既存のイベントに参加を検討

候 補： ◎防災訓練（11月14日）、かわさき環境フォーラム（12月）

内容(案)： パネル、立体模型などの展示

小学校丸ごと3D化プロジェクトのデモ映像の上映

各委員の関連する事業のPR

※防災訓練

「防災」「交通安全」などの身の回りの危険について手軽に学び、体験できるイベント。

※かわさき環境フォーラム

地球温暖化防止センター主催、楽しみながらエコを学べる市内最大の環境イベント。



（参考）昨年度かわさき環境フォーラムでの出展ブースの様子